



前人未到の記録達成に地元沸く!

No.6

谷繁選手兼任監督が通算出場記録を更新

庄原市市民栄誉賞を受賞しているプロ野球中日ドラゴンズの谷繁元信選手兼任監督が、7月28日の阪神タイガース戦で、野村克也氏が持つプロ通算出場記録を塗り替える3018試合に出場し、歴代単独1位となりました。

谷繁選手兼任監督は、平成元年にドラフト1位で横浜大洋ホエールズ(現横浜DeNAベイスターズ)に入団。1年目の出場から足掛け27年、44歳での達成となりました。

これを受けて東城町の谷繁元信後援会では、記念横断幕とポスターを作製。後援会の金本順二会長は「偉業達成を、町を挙げて喜びたい。同級生としても誇りに思う」と話していました。



▲記録更新を祝う横断幕。ポスターを手に記録更新を喜ぶ金本会長

比和の宝を守り続ける

No.8

希少な花ヒゴタイ

比和町三河内の慶雲寺の参道途中の丘で、盆花(ほにばな)として親しまれているヒゴタイの花が、8月中旬から下旬にかけて見頃を迎えました。

ヒゴタイは絶滅危惧Ⅱ類に分類されている希少な花で、瑠璃色の小さな筒状の花が集まって、花径5センチほどのボールのような花を咲かせます。毎年咲く季節になると多くの方が見学に訪れます。

保護活動に取り組んでいるヒゴタイの会の藤原群三さんは「今年はここ10年の中でも最も多くきれいに咲いた。比和の宝とも言えるこの花を、この先もずっと守り続けていきたい」と話していました。



▲ヒゴタイ

自分の思いを言葉に込め発表

No.5

備北地区中学生意見発表会・8/20

備北青少年健全育成連絡協議会が主催する備北地区中学生意見発表大会が庄原市ふれあいセンターで開催され、庄原、三次両市の中学校計19校から38人が参加しました。

生徒は250人の聴衆を前に、自ら決めたテーマをもとに自分の考えを5分程度にまとめて発表。部活動や家族、地域のことなどについて幅広い意見が発表されました。

岩本和さん(東城中3年)は「大勢の前で、自分の意見を発表するのはとても緊張しましたが、同じ中学生のさまざまな思いの込められた発表を聴くことができ、勉強になりました」と話していました。



▲参加者全員で記念撮影

親子で減塩料理にチャレンジ

No.7

おやこの食育教室・8/31

高野町食生活改善推進員協議会主催による「おやこの食育教室」が、高野福祉保健センターで開催され、高野保育所園児12人とその保護者が参加しました。

この教室は、調理体験を通じて食べ物を選ぶ力や豊かな感性を培い、子どもの頃から減塩に取り組むことを目的に開催されたものです。今回は、減塩できる調理方法を学びながら、親子で高野産の野菜を使った減塩オリジナルスープなどを作りました。

参加した保護者は「子どもに新しい体験をさせることができて良かった。家族で食生活について考える良いきっかけになった」と話していました。



▲包丁で野菜を切る子どもたち

地域防災力向上を目指す

No.2

庄原市総合防災訓練・8/30

平成27年度庄原市総合防災訓練が西城球技場周辺一帯で実施され、官公署をはじめ、庄原市赤十字奉仕団、西城自治振興区など8団体、約300人が参加しました。

非常に強い台風の襲来により、市内各地で被害が発生しているという想定のもと、避難所開設訓練、建物火災防ぎょ訓練、県防災ヘリコプターも飛来しての救援物資受け取り訓練、負傷者搬送訓練が行われました。

炊き出しの体験や、各種被害に対する一連の動き、関係機関との連携のとり方などが再確認され、参加者一人一人が真剣に取り組んでいました。



▲救助訓練の様子

戦争体験を語り継ぐ

No.4

戦後・原爆70年の集い・8/22

総領自治振興区・市戦没者遺族会総領支部による「戦後・原爆70年の集い」が開催され、44人が参加しました。

これは、新聞報道などで市が主催する戦後70年の巡回パネル展開催を知った町内の方が、戦死した父親の遺品を同自治振興区へ持参し、戦争への思いを語ったことをきっかけに企画されました。

集いでは、平成元年に総領中の生徒が被爆した方々を取材し製作した「原爆体験記」の朗読や参加者が自らの戦争体験を語り合う戦争体験懇談などが行われました。

参加者は「戦争の悲惨さと平和の尊さを再認識した」と話し、戦争体験を語り継ぐ貴重な機会となりました。



▲持ち寄られた遺品などを観覧する参加者

ふるさとの魅力を発見

No.1

西城中総合学習・9/10

地域おこし協力隊員の森岡愛さんが、西城中学校の総合学習の取り組みで講師を務め、生徒36人が授業を受けました。

授業は、普段暮らす西城町の魅力を発見することをテーマに行われ、まず、森岡さんが西城町内のさまざまな取り組みを紹介しました。その後、生徒たちがそれぞれ感じる西城町の魅力をグループ討議し発表しました。

「自然が自慢だ!」「住む人々が優しく魅力的!」といった、生徒たちが普段感じている思いが意見として飛び交い、郷土愛あふれる50分間となりました。



▲グループ討議の様子

子育ての大変さを実感

No.3

口和中生徒が乳幼児とふれあい体験・9/11

口和中学校の3年生18人が、家庭科の授業の一環として保育所入所前の0~4歳児8人とふれあう体験学習を行いました。

生徒は、母親たちと一緒に遊んだり、抱いたりして乳幼児とふれあうと、その後、母親たちが校内を見学している間、生徒たちだけで乳幼児を預かりました。

ところが、母親がいなくなったとたん乳幼児は泣き出し、抱っこをしてあやしてもなかなか泣き止まない状況に生徒も困惑。終了後は、「赤ちゃんと遊んで楽しかったが、泣かれるとどうしていいかわからず困った。親の大変さが分かった」と息をついていました。



▲乳幼児とふれあう生徒